

大津町議会文教厚生常任委員会と

上井手の水とともに生きる町づくりの会との意見交換会 会議録

1. 日 時 令和3年6月21日（月）午後6時00分
2. 場 所 オークスプラザ1階 研修室1・2
3. 出席者 (大津町議会側) 6人
委員会 豊瀬委員長 山本副委員長 三宮委員 大塚委員 田代委員
議会事務局 大塚次長

(上井手の水とともに生きる町づくりの会側) 4人
村下氏、千田事務局長、事務局 緒方氏、内田氏

(町執行部) 4人
矢野健康福祉部長、羽熊教育部長、(生涯学習課) 荒牧課長、紫藤係長

4. 議題 ① 上井手の歴史文化伝承への取り組みについて
- ・ 町づくりにも様々な方向性があるが、400年以上の歴史がある上井手、下井手を軸に発展し、宿場町としても位置付けられた大津町においては、歴史文化を基本とした町づくりが重要な要素だと考えている。
 - ・ 自分たちの住む町がどんな町かを把握して語り伝え、それを通して人と人とが結びつく形（おおづ域内循環）によって、歴史文化そのものを交流のベースとすることができないかと考えている。
 - ・ 域内循環の仕組みが根付いてこそ、近隣の方々が大津を周遊するという形も見えてくるのではないかと期待している。
 - ・ まずは、町内の歴史に詳しい人材を講師とした町の案内人育成講座を企画し、案内人となる人材を育成することを考えている。その後、講座を受講された方を案内人として登録し、企画運営を行う事務局を設置、歴史文化伝承館を中心に活動ができれば、というビジョンを描いている。
 - ・ 小学校の総合的な学習の時間の地域学習として、水の学習にも取り組んでもらえるよう働きかける。中学生、高校生にも何らかの形で働きかけ、学び伝えていく担い手になってほしい。
 - ・ 現役世代にも学んでほしい。特に元気な高齢者に参加していただけるよう社協などを通してアプローチしていきたい。
 - ・ 生涯学習課主催で地域学習の講座をされているが、民間が一緒に入って、さらに輪を広げていってはどうかと思っている。
 - ・ 世界かんがい遺産となった上井手・下井手は、町の宝であるということを町民に知っていただくための活動をしたい。

- ・ 行政と民間がタイアップして、町を盛り上げていきたい。

5. 議題 ② 意見交換

委員：瀬田神社は、地域で守る会を組織し、案内ボランティアにも取り組んでいる。菊陽の鼻ぐり井手や鉄砲小路も地区の方が中心になって組織として活動されているようだ。歴史を学ぶだけでなく、町とタイアップして活躍する場も設けていけたらと感じた。

委員：公民館講座の一つの制度として「生きがづくり講座」があり、誰でも企画を持ち込んで講座を開設することができる。そういった取り組みを活用することも一つの手ではないかと思う。高校生への働きかけについては、学校に直接提案を持っていくのも良いと思う。また、鼻ぐり井手のボランティア養成の方法をモデルに取り組みを進めていくのはどうか。

町づくりの会：高校生へのアプローチは一つの案であり、具体的な方法については今後色々な情報を集める中で検討していきたい。鼻ぐり井手のボランティアは、教育委員会が区長さんなどへ案内し、学習講座を開き、その後ボランティアをされる組織ができたように聞いている。取り組みを参考にしたい。

町づくりの会：先日、区長さんに地域を知ってもらえたらという思いから、生涯学習課主催で地域の地蔵さんを調べる取り組みをされたが、地域のことを案内できるような方は多くないのが現状だった。地域のことを案内できる人材を増やし、町の活性化につなげたい。町の施設やすばらしい歴史をもっと生かしたい。

町づくりの会：道の駅阿蘇を運営しているのはNPO法人であり、阿蘇市の観光課が呼び掛けてNPO法人を立ち上げたと聞く。道の駅なので販売がメインであるが、総合案内所でもあり、各地区の案内人と観光客を繋ぐサテライトになっている。

委員：町の歴史は伝えていかなければならない。行政が旗振りをして、町内の関係団体がスクラムを組むための骨組みを作っていく必要があるのではないか。役割分担が必要だと感じる。

執行部：伝承館の活用や図書館との連携については、担当課としても考えているところである。後継者の育成にも力を入れたいとの考えから、主催の講座にも取り組んでおり、その成果に期待している。

執行部：伝承館の活用については色々ご意見をいただいております、駅から上井手を回遊するときのポイントとなる施設として、場所を活かした具体的な取り組みを検討している。学校でも地域との協働活動を推進しており、子どもたちが地域で色々なこと吸収し、地域を大切にすることを育むという目的のためにも、今回お話のあったような取り組みは大変有意義だと思う。

生涯学習の部分だけでなく、観光イベントの際にタイアップするなど、商業観光課等と横の連携を取りながら進めていきたいと思う。

委員：ボランティアの方の力を借りて協力し合うことができれば、サービスをもっと充実させることができる。学んでみたいという人はたくさんいると思う。

町づくりの会：阿蘇では市長を理事長とした環境保護のための官民共同の財団法人があり、色々な地

域からの野焼きボランティアが約900人登録されているそうだ。その方たちの力により、阿蘇の風景が守られている。

この事例のように、官民共同の母体とその理念をサポートするボランティアとの組織は、取り組みようによっては形成できると考えている。

委員：講座に参加しても活躍の場がなければもったいない。役割があることでやりがいも感じられる。今日のお話のように、地域の力を借りて町おこしができる取り組みは大変すばらしいと思う。町と地域がもっと協力し合う仕組みを作ることが、今後の町の発展に大きな影響を与えるのではないか。今後も地域からの色々な意見を聞いていきたい。

閉会 午後7時05分